

会 議 録

1 会議名

第 10 回上越市消防団適正配置検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) あいさつ（公開）
- (2) 報告書（案）の骨子について（公開）
- (3) 報告書の構成について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

平成 31 年 1 月 28 日（月） 午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第八会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員 員 田村圭子、広瀬幹夫、大滝利彦、杉本正彦、西山新平、山本啓一
- ・ アドバイザー：井ノ口宗成
- ・ 事 務 局 笠原浩史、浅野克未、田村晋一、岩崎健治、伊倉大輔、竹内巨樹
狩川尊子

8 発言の内容（要旨）

事 務 局 ： 田村委員長から、電車の遅れにより、到着が遅れるという連絡がありましたので、田村委員長が到着するまで、広瀬副委員長から進行をお願いします。

また、本日は、検討委員会のアドバイザーとして、富山大学の井ノ口先生から参加いただいております。

それでは、あいさつを、広瀬副委員長からお願いします。

(1)あいさつ

広瀬副委員長： 前回の委員会を受けて、報告書の骨子の修正案を作っていた
だいたところですが、これに基づいて検討をしていきたいので、
委員のみなさん、よろしくお願いします。

それでは、議題に沿って進めます。報告書（案）の骨子につ
いて、事務局から説明をお願いします。

(2)報告書（案）の骨子について

事務局： <資料1に基づき説明>

「10年先を見据えた消防団の再編案」について、消防団が主
体になって取り組んでいますので、消防団の副団長である山本
委員から説明をお願いします。

山本委員： 昨年12月に、団長から各方面隊長、分団長に、各分団で活動
拠点を決め、まとめられる部はまとめるよう指示を出していま
す。各分団からの報告を受け、2月に団長、副団長で検討して
いきたいと考えています。検討委員会でも審議していただけれ
ばと思っています。

(田村委員長到着)

田村委員長： 消防団が主体として取り組みされているのでしょうか。それ
は、部の再編のようなものですか。

山本委員： そうです。市街地での集約はそれほど必要ないですが、山間
部では消防団員の確保が難しく、部はたくさんあるが、団員が
4名の部もあり、そこだけでは活動ができないため、集まって
活動できる拠点を決めるよう、各分団に指示を出しています。

事務局： 消防団が検討している再編に関連する資料は、資料3です。
<資料3に基づき説明>

2月中に消防団の再編案ができるので、検討委員会で承認して
いただいた上で、報告書に記載したいと思います。

委員の皆さんから意見を伺いたいのでお願いします。

田村委員長： まず、委員会の資料にはないですが、新聞の記事には、「消防
団再編を検討、器具置場など統合へ、背景に団員不足か」とあ

りますが、因果関係を正しく説明しないといけません。すごくいい指摘で、感覚的に正しく理解していると思いますが、理屈は今の説明ではよく理解できませんでした。

それでは、報告書(案)の骨子について、検討していきます。

組織体制の見直し

消防団業務

田村委員長 : 1つ目の項目については、「早期に参集できる」というのは、初期消火を入れずに後方支援だけなのでしょうか。直接的に初期消火を助けると書いてないですが、これでいいのでしょうか。避難誘導という言葉がありますが、言葉はこれでいいですか。

2つ目の項目については、連携の主体はこれで全部出ていますか。

3つ目の項目については、女性団員は活動が難しいと聞いていたのですがどうですか。また、OB団員が書いてないですが、いいですか。

山本委員 : 消防団の業務は、常備消防の後方支援だけではないです。火災の際に常備消防より早く到着することは多々あり、そこで常備消防が来るのを待っているということはありません。消火活動の体制準備をしますし、後から来る車の水利を確保します。体制を確保するというのは、間違いではないですが、後方支援だけではないです。

田村委員長 : 山本委員がおっしゃったように、初期対応、後方支援、残火処理の3つあることを書かないといけません。事務局の見方をすると、調査の結果、初期駆けつけが難しくなっているので、後方支援と書いたのだと思います。初期消火は難しいと書くのか、上越市では後方支援だけと書くのか、委員会として提言しないといけないのかと思います。また、それがうまくいっていないと書かないといけません。

また、常備消防から延焼防止の手伝いをしてほしいと話がありましたが、広瀬副委員長から意見があればお願いします。

広瀬副委員長： 文面では、含みがあるように書かれています。骨子を作るにあたり、消防団の本来の活動を全て書くというのであれば、それでいいと思いますが、文章にすると長くなってしまわないでしょうか。

田村委員長： 事務局にお聞きしたいのですが、骨子として 1 枚にまとめたのですか。

事務局： 大前提として、消防庁が定めている、消防団が担うべき業務として 8 項目があります。最初の議論で、消防団が早期に集まるのは難しいが、大事だという意見がありました。この骨子は、補足資料として記述しているので、委員のみなさんの意見を基に修正したいと思います。

田村委員長： 内側に 8 項目あるのは、みなさん合意しています。ただ「火災現場へ早期に参集できる体制を確保する」と書いてあるのは、分かりにくいです。概ね合意ですが、この書き方では腑に落ちません。

また、消防団活動にあたり、企業、市民、家族の理解がないと活動できないというのをどこかに書きたいですね。企業の協力がなければ活動できない、家族の理解がないと消防団員にもなれないということがよく分かったので、これが書いてないこの委員会をやったことにならないのではないのでしょうか。

大滝委員、何か意見があればお願いします。

大滝委員： 8 項目については、私たちはわかりませんが、実際に書いてないので、一般の人たちには分からないのではないのでしょうか。

「体制を確保する」というのは、譲歩して書いているとは思いますが、現実には体制の確保ができないというのがあります。できるだけやりましょうという努力目標、そして、体制を確保できたら、少しでも消しましょうというのが常識で、それを書かなければ伝わらないのであれば、書かなければならない。ただ、極めて厳しいということを書かないといけません。それができないから、体制をどうする、人が足りないということになって

しまうのではないのでしょうか。

全般的には、細かいところまで突っ込んで書いていません。一つ一つの課題に対して答えを書いていくと、3枚から5枚になってしまいます。

西山委員：消防団は、常備消防と同時に通報が入りますが、人が集まらないのが実情です。山間地では、初期消火が遅くなるので、それを補完するために市の総合事務所に消防隊を編成しているところが何か所もあり、かなり有効となっています。実体としては、後方支援の要素が大きくなっています。

田村委員長：書き方の問題が大きいのではないのでしょうか。できること、できないことをはっきり書かないといけません。また、初期消火が難しいと地域の人が聞くと、それができないなら消防団が必要ないのではないかと思ってしまいます。そうではなくて、それ以外のこともたくさんやっていて、そっちの方が多いということを書かないといけませんね。

OB 団員、女性団員についてはどうですか。

(意見なし)

では、消防団の再編成の考え方については、後に回して、次に進みます。

消防器具置場や消防資機材等の整理

田村委員長：町内会館や公共施設の利活用は現実的なのですか。

事務局：利活用は可能です。

大滝委員：消防ポンプやホースを自主防災組織や町内が使うことがあるが、危険はないのでしょうか。

山本委員：使い方が分からないと、危険が伴うことがあります。小型ポンプは、定期的に点検しないとすぐにエンジンがかからないことがあります。また、水を出すときに、ホースの先を持つ人も危ないので、ある程度知っておかないと難しいと思います。

大滝委員：現実性はあるのでしょうか。太いホースは、経験者は使えるが、誰もが使うのは難しいという話を聞いています。特に、住

宅密集地では早く消さなければいけないので、誰でも使える細いホースを整備した方がよいのではないかと思います。

田村委員長 : 事故が起きてからでは遅いので、資機材をどう使用していくか、簡単なルールを作らないと危険が伴うのではないのでしょうか。

大滝委員 : 10年前くらいに地域に残してもらった資機材を活用できていないという話も聞きます。

山本委員 : 消防団は65mmのホースを使用していますが、最近は40mmホースもあります。常備消防も細いホースで建物の中まで入っていくことがあり、消火栓に細いホースを配備している地域もあります。そういうものであれば、水圧もそれほど上がらず使いやすくなっています。また、女性のポンプ操法で細いホースが使用されています。そういう軽量のホースを整備すると使用できると思いますが、費用がかかってきます。また、払い下げたポンプは、定期的に点検していなければ危ないこともあるので、考えなければいけないと思います。

西山委員 : 上越市になる前の経験ですが、再編で余ったポンプを町内に払い下げましたが、使いこなせていないことが明らかです。費用がかかるので、修理もしていません。可搬ポンプは、大人でも4人いないと持ち上げられないので、経験のある人がいても、人が集まらなると使えません。形だけのものになり、運用が難しいと思います。

田村委員長 : 消防器具置場や消防資機材等の整理については、少し考えるということで、次に進みます。

消防団員の確保

訓練や行事の見直し

田村委員長 : 「管轄範囲を限定せず」というのは、誰かから意見があったのですか。

事務局 : 消防団員へのヒアリングにて、柿崎方面隊の米山分団が、人がいないということで、実際に行っているものです。

田村委員長 : それを全体に広げるというものですか。有効であると紹介しているものですか。

事務局 : 中山間地でそういうところがあれば、こういう取り組みが有効的だと記載しました。

田村委員長 : 分かりました。次に進みます。

関係団体との連携・協力

田村委員長 : 団員からの要望は、行政から新入団員の勧誘を助けてほしいということでした。若い人を紹介することができないのでしょうか。行政からの声かけをもっとやってほしいという要望がかなりありました。

山本委員 : 毎年、成人式で勧誘していますが、話を聞いてくれる人は少ないです。そのような華やかな場所、祝い事の場合は難しいので、団体へ出向いて勧誘する、町内単位での確保という方が、話を聞いてもらえるのではないかと思います。

杉本委員 : 今まで町内会と消防団の関わりがほとんどありませんでした。町内会という名前が骨子の中に出てきているということは、これから町内会と連携していかなければならないと思います。自分の町内では、今まで消防団に入ってほしいと言われたことはないですし、消防団員になったらどんなことをするのか全く分かりません。消防団をなくしていいのか、町内を含めた市民全体で考えていかなければいけないのではないのでしょうか。

田村委員長 : 消防団の活動を全然聞いていないという町内会が多かったのには驚きました。

杉本委員 : 広く、多くの人に知らしめていくことが第一歩かと思います。

西山委員 : 分団内で統合していくと、ますます消防団と町内会が離れていってしまうので、消防団と町内会の連携をしていかなければなりません。

田村委員長 : では、戻って、再編成について検討していきます。

組織体制の見直し

消防団の再編成の考え方

田村委員長 : 基本は器具置場を中心に拠点化していくと聞いています。

山本委員 : いくつか部がありますが、その中で拠点となる所を各分団で決めていきます。

田村委員長 : 戦略を転換していくときは、メリットとデメリットがありますが、大滝委員どうですか。

大滝委員 : 100%同じことを全市一律でやることはできません。高田・直江津と山間地では違うので、どう書くかが問題です。また、学校区というのは、統合が進んでいて、今後どうなるか分からないので、これで決めていいのでしょうか。

田村委員長 : 学校区で分けるのは、今後危険かもしれないですね。また、大滝委員の言うように、地域特性のことを書かないといけません。上越市は一つの状況ではないことを記載しなければいけません。

広瀬副委員長、どうお考えですか。

広瀬副委員長 : 市街地と山間部の違いを書かないといけませんが、人がいなくなっているという中で再編を考えていくことなので、現段階ではこれでよいのではないのでしょうか。学校単位など考えると、要素が増えていってしまいます。

田村委員長 : では、これを第一弾としてトライし、変化を見ていくということで、みなさんよろしいですか。

骨子案については、概ねよいと思いますが、書き方を少し丁寧にするということをお願いします。

次に、報告書について事務局からお願いします。

(3)報告書の構成について

事務局 : <資料2に基づき説明>

田村委員長 : 報告書の構成だけだと思っていましたが、報告書に「10年先を見据えた消防団の再編案」が入っているのは議論しなければいけませんね。委員のみなさんが決めたということになります。案が出てこない具体的な議論ができません。

目次案については、この目次が道端に落ちていたら、何市のものかわかりません。もう少し上越市の特徴、土地柄が入った方がいいと思います。また、提言書がないと思ったら、これを提言書にするということということが分かりました。

目次案、また、再編案をここに載せることに意見があればお願いします。

大 滝 委 員 : 消防庁の「消防力の整備指針」に定める 8 項目を書いた方がよい。どこかに書かないと分からない人がいます。再編案については、例としてあげるか、A、B、C くらいに地域を区分けして書くかしないと、具体的に書くのは難しいです。方向性は示せるので、何も書かないのは無責任になってしまいます。

山 本 委 員 : 市街地と山間地で分けて記載する方がよいと思います。また、8 項目については、入れた方がよいと思います。

再編案は、前段で入れられるものがあるのではないのでしょうか。

西 山 委 員 : 消防団では検討委員会の議論を踏まえて、再編に向けて動いていますが、団の方向を踏まえた報告書にしないと、団は団ということになってしまい、何のための検討委員会だったのかということになってしまうので、団の方向が出た段階で、検討委員会で議論して、報告書に載せた方がよいのではないのでしょうか。

杉 本 委 員 : 消防団が考えているものと、検討委員会が考えているものが離れているとよくないので、ある程度一致したものでないといけないのではないのでしょうか。

広瀬副委員長 : 消防団の再編に向けて会議を開催していると思いますが、構成メンバーと、進捗状況を教えてください。

事 務 局 : 会議の回数までは把握していませんが、正副団長会議、本部員会議、方面隊会議があり、団長、副団長、正副方面隊長、分団長に、検討委員会での進捗状況を報告しています。団長から各分団長に、資料 3 に基づき指示を出しました。先程、学校区

という話が出ましたが、中学校区、小学校区、旧学校区で考えてもよい旨を添えながら話をしていたので、みなさん理解した上で作業に取り組んでいます。これから各分団から提出された再編案を、団長、副団長で確認作業に移るといった段階です。

田村委員長 : 資料が出てきたら、再編案を検討しようというのは、みなさん賛成だと思います。次の議題の、今後のスケジュールのことになってくるとはと思いますが、今後のスケジュールを教えてください。

(4)今後のスケジュール

事務局 : 消防団の状況を委員のみなさんに説明した上で、その後、2回くらい委員会が必要かと考えています。

田村委員長 : 次の委員会である程度話し合いをして、その後、最終の報告書についてもう1回開催するということでしょうか。それは、3月のはじめですか、末ですか。

事務局 : 再編案については、みなさんに郵送し、検討委員会を開催する前に時間をとっていただくようお願いしたいと思っています。

田村委員長 : 事前に話し合う時間を設けてもらえるのであれば、みなさん合意されると思います。次回の検討委員会の日付はまだ決められないと思います。

次に、少し時間をいただき、アドバイザーの井ノ口先生から、アンケートの集計結果を説明していただきます。

井ノ口先生 : <委員と事務局のみに配付した資料に基づき説明>

検討委員会で実施したアンケートの結果を、数量で見るというものと、地域別で見るというものを作り、比較できるようにしたものです。まだ途中で、経過報告になっています。

グラフが上越市全体の特徴を表し、地図が載っているものは、各分団の場所と回答結果をグラフで表しています。

管轄範囲内に居住しているかという質問を例に挙げると、管轄範囲内に居住している人は上越市全体の83%になっていますが、地域別で見ると、ばらつきがあります。

田村委員長 : 地図は、分団ごとに、管轄範囲内に居住している人の割合が多い所は青色に塗ってあり、多くは管轄範囲内に居住しているが、管轄範囲外に居住している人もいる場所はオレンジ、管轄範囲外に住んでいる人が多い所は濃いピンクで塗ってあります。西側、山間部は濃いピンクで塗ってあるところが多いので、管轄範囲外に住んでいる人が多く、市街地は青くなっているため、管轄範囲内に住んでいる人が多いと見ていきます。上越第一、第二、第三、第四分団は地域が狭いので地図の外に出して書いてあります。また、幹部、事務所、ラッパ隊は地域が決まっていないので、地図の外に出してあります。

上越市全体では、83%は管轄範囲内に住んでいて、15%は管轄範囲外に住んでいます。また、それ以上に、管轄範囲外に住んでいる人が多い地域があるので、有事の際に駆けつけることが難しいということが読み取れます。

井ノ口先生 : 次に、問2の勤務形態にいくと、全体では77%が日勤、21%が交代勤務になっています。

田村委員長 : 地図を見ると、青は日勤が多い地域、オレンジは日勤が多いが、交代勤務も多い地域、濃いピンクは交代勤務が多い地域となっています。こうやって見ていくと、地域で似た結果がでていくことが分かります。

田村委員長 : 問6の勤務地から器具置場へかかる時間については、初期消火に間に合う人は10%しかいないという結果になります。

井ノ口先生 : 市街地は、初期消火の5分以内に到着できる人が比較的多く、山間地では30分以上かかってしまう人が多くなっています。市街地の中でも、第四分団は少し違うということも分かります。

全体で14の設問がありますが、今日は12問まで分析結果を説明しています。

また、設問全体を1枚にまとめ、分団に分け、設問ごとに色を塗った資料も作成しています。青は、消防団継続にとってポジティブ、黄色は真ん中、赤は危険、オレンジは黄色より赤寄

り、薄い青は黄色より青寄りになっています。上から青が多い順に並んでいます。

田村委員長 : 委員のみなさんの感覚と似ているのではないのでしょうか。

一番問題だと思うのは、町内会と消防団はお互いに何をやっているのか分からないことです。消防団員も消防団全体のことかわからない、自分たちのところを越えると、自分たちがどういう風に見られているかわからないのということなので、可視化して、気持ちを引き締めたり、誇りに思ったりしていく必要があるかと思います。

また、器具置場の場所も地図に落とし、カーネル密度分布という手法を使い、器具置場が集中しているところとを分析しています。これが、人口密集地と合致していると、よいのかと思います。色々な事情があるので、科学的根拠だけで判断することはできませんが、このようなものに基づき、作業を始めています。

井ノ口先生 : 平成 27 年度の国勢調査のデータをもとに、人口密度の分布を作成しました。これを器具置場の地図と重ねると、人口密度と器具置場の位置が必ずしも合致しないということが分かります。

田村委員長 : こういうものを、提言の根拠資料として使うのはどうでしょうか。このように進めてもいいかも含め、また意見をいただきたいと思います。

何か意見はないですか。

(意見なし)

田村委員長 : それでは、今日のまとめとして、概ね理解しましたが、もう少し書き方を変えていただきたい。また、消防団の人たちの意見がまとまった後に、参考にする時間を設けてから、最終報告書に向かうようにお願いします。

以上で終わります。

事務局 : 次回の委員会の日程は、後日連絡します。

9 問合せ先

上越市危機管理課

TEL : 025-526-5111 (内線 1864)

E-mail : kikikanri@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。